

# 米軍基地環境カルテ

辺野古弾薬庫（施設番号：FAC6010）

沖 縄 県

## 改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

# 目次

8. 辺野古弾薬庫（施設番号：FAC6010）	1
8.1 基本情報	1
8.1.1 名称	1
8.1.2 所在地、広さ（施設面積）	1
8.1.3 施設の概要等	2
8.1.4 施設の管理及び用途	3
8.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	3
8.1.6 土地利用規制図	3
8.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	3
8.2.1 基地等の土地の状況	3
8.2.1.1 地形分類図	3
8.2.1.2 表層地質図	3
8.2.1.3 土壌図	3
8.2.1.4 切盛土分布図	3
8.2.2 基地内の施設の使用状況	3
8.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	3
8.2.2.2 施設等使用履歴	5
8.3 基地等の環境状況	5
8.3.1 自然環境（植物）	5
8.3.1.1 現存植生図	5
8.3.1.2 植生自然度図	5
8.3.1.3 特定植物群落	5
8.3.1.4 重要な種、貴重な種等	5
8.3.2 自然環境（動物）	5
8.3.2.1 重要な種、貴重な種等	5
8.3.3 水利用状況	6
8.3.3.1 水利用状況	6
8.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	7
8.3.3.3 河川及びダム等の分布状況	8
8.3.4 地下水の状況	8
8.3.4.1 地下水基盤面等高線図	8
8.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	8
8.4.1 事故等の概要	8
8.4.2 事故等発生場所	9
8.5 環境調査を実施する場合の留意事項	9
8.6 その他情報	9

8.7 環境等に関する通常監視について .....	9
---------------------------	---

## 8. 辺野古弾薬庫（施設番号：FAC6010）

### 8.1 基本情報

#### 8.1.1 名称

辺野古弾薬庫（施設番号：FAC6010）

#### 8.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和47年5月15日>

所在地：名護市字二見、字辺野古

広さ：約1,178千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15メモ等）（仮訳）」（1972年5月）

（[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02\\_03.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf)）を参照

<平成30年12月現在>

所在地：名護市（字二見、字辺野古）

広さ：1,214千㎡

地主数：73人

駐留軍従業員数：一人

出典：「沖縄の米軍基地」（平成30年12月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

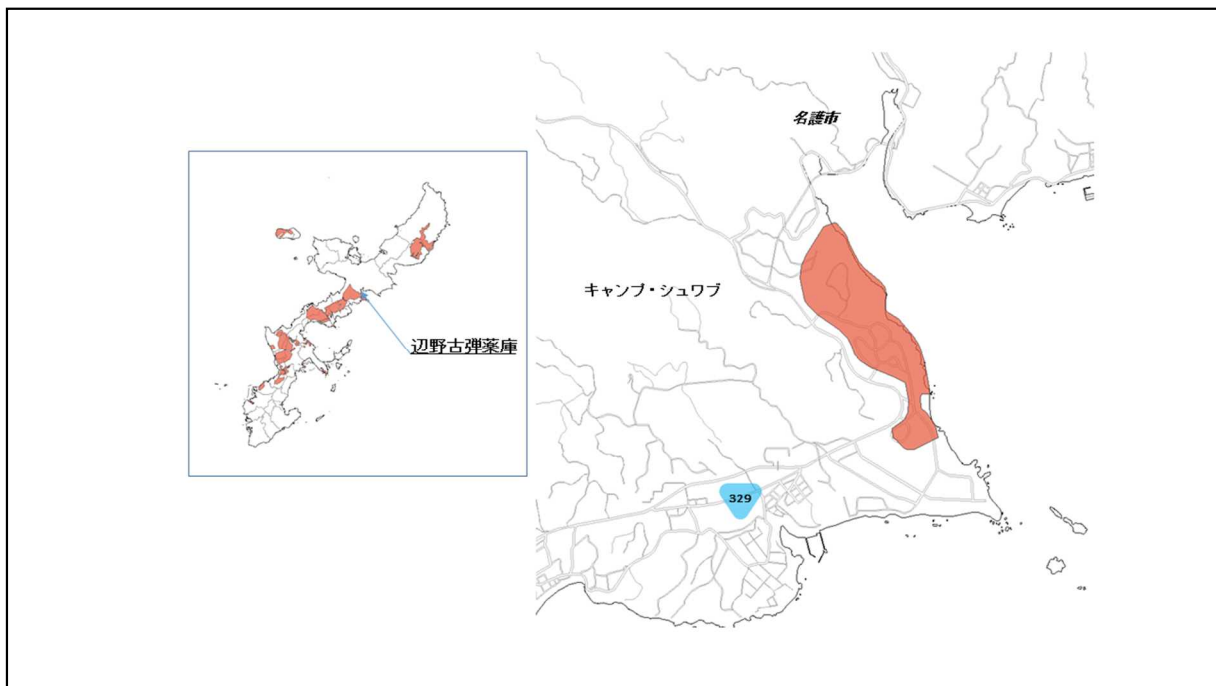


図 8-1 辺野古弾薬庫の位置図（平成28年時）

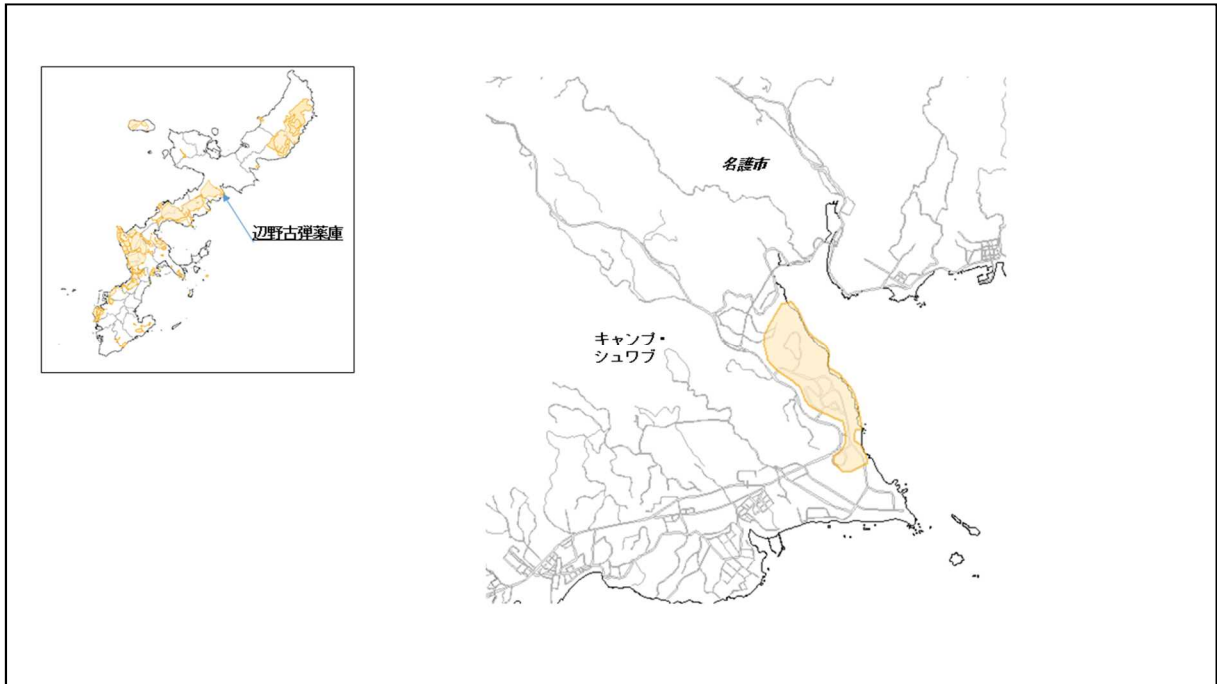
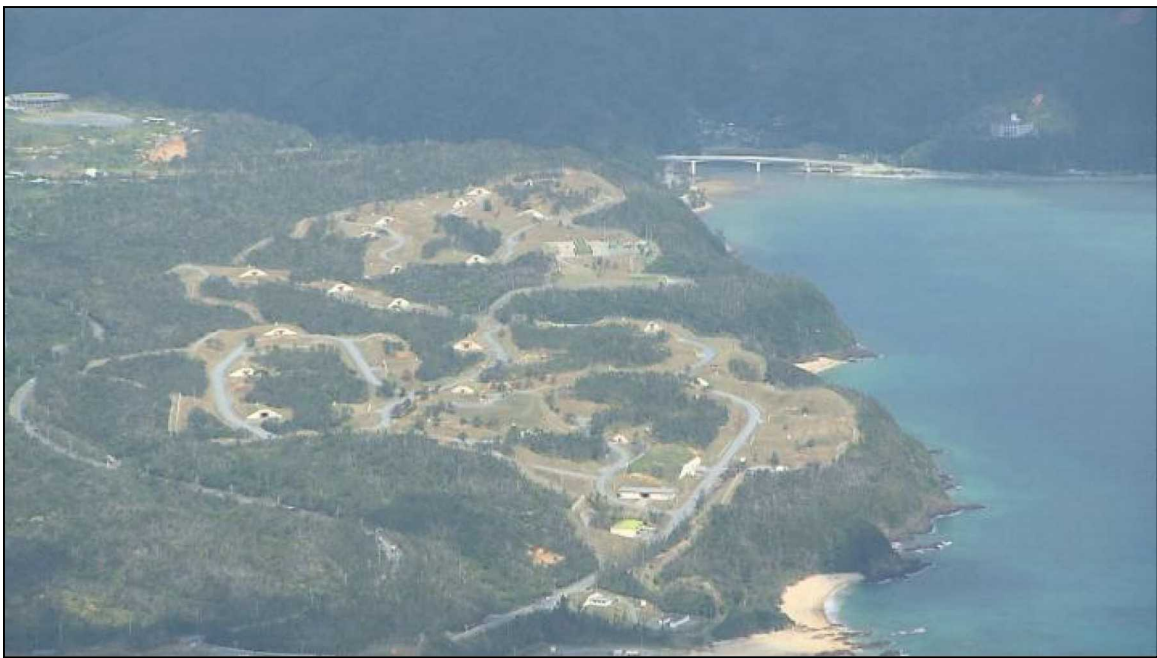


図 8-2 辺野古弾薬庫の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

図 8-3 辺野古弾薬庫の航空写真

### 8.1.3 施設の概要等

辺野古弾薬庫はキャンプ・シュワブの北側に隣接し、大浦湾に面した小高い海岸台地に広がっている。

この施設は北部の弾薬庫地区と南部の管理地区に大別され、弾薬庫地区には覆土式、上屋式の弾薬庫が存在する。かつては弾薬庫地区の北側を海兵隊が、南側を陸軍が使用していたが、現在は全て海兵隊用となっている。

現在、「再編の実施のための日米ロードマップ」に盛り込まれたキャンプ・シュワブの施設の再編成に伴い整備が必要となる施設として、弾薬庫の整備が進められている。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### 8.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部

使用部隊名：第 3 海兵兵站群第 35 戦闘兵站連隊需品即応中隊弾薬小隊

使用主目的：弾薬庫

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

#### 8.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

なし。

<跡地利用計画>

策定されていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

#### 8.1.6 土地利用規制図

辺野古弾薬庫及び周辺の土地利用規制図を図面集「[土地利用規制図B](#)」に示す。

### 8.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

#### 8.2.1 基地等の土地の状況

##### 8.2.1.1 地形分類図

辺野古弾薬庫及び周辺の地形分類図を図面集「[地形分類図B](#)」に示す。

##### 8.2.1.2 表層地質図

辺野古弾薬庫及び周辺の表層地質図を図面集「[表層地質図B](#)」に示す。

##### 8.2.1.3 土壌図

辺野古弾薬庫及び周辺の土壌図を図面集「[土壌図B](#)」に示す。

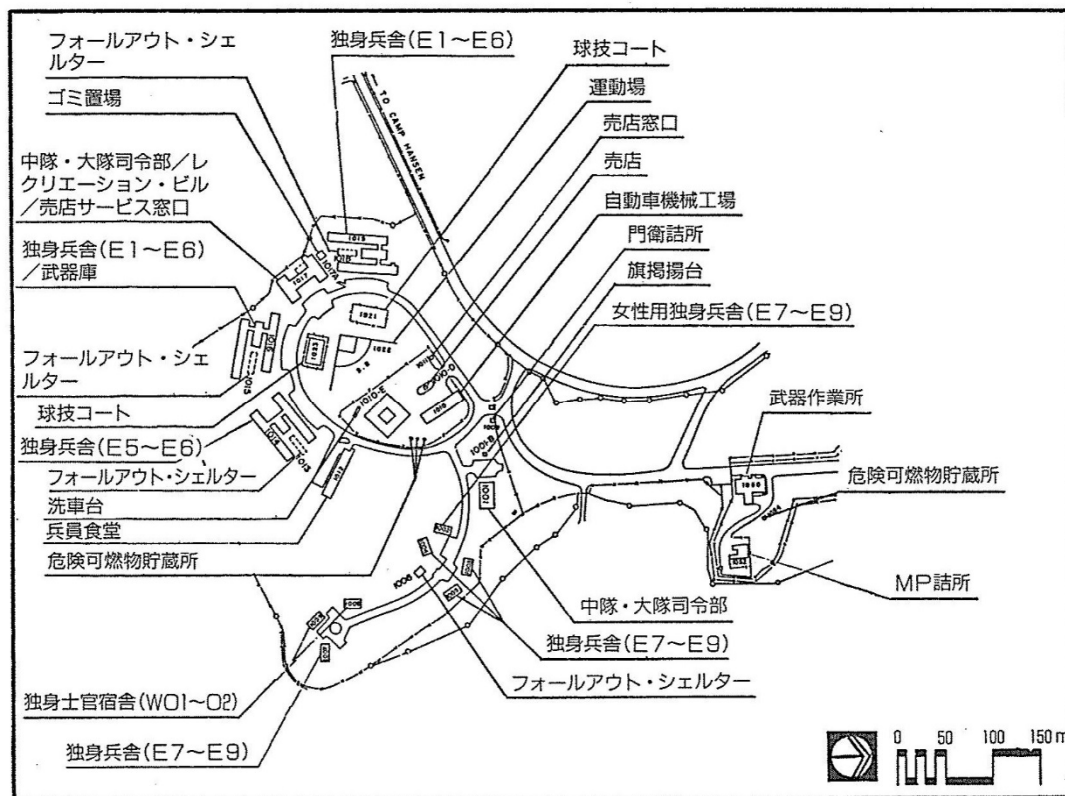
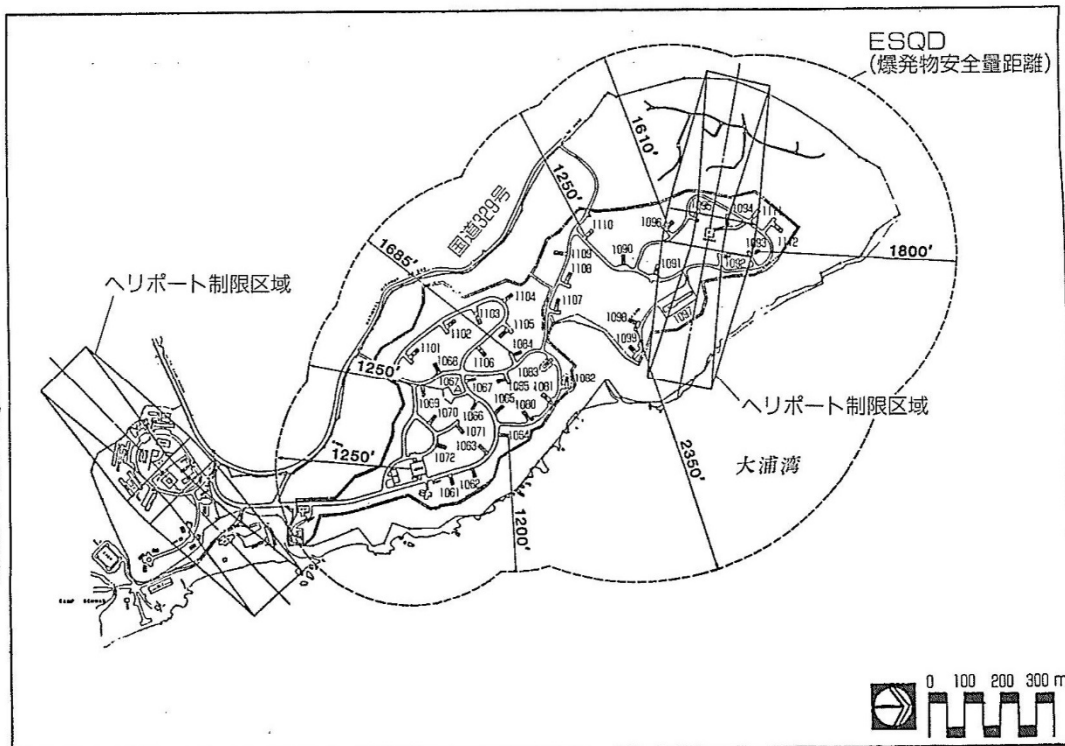
##### 8.2.1.4 切盛土分布図

辺野古弾薬庫の切盛土分布図は作成されていない。

#### 8.2.2 基地内の施設の使用状況

##### 8.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

キャンプ・バトラー米海兵隊基地施設技術部「キャンプ・シュワブ・マスタープラン」（1987年3月、情報公開法にもとづく公開）を基にした辺野古弾薬庫の施設配置図を図 8-4 に示す。



出典：「情報公開法でとらえた沖縄の米軍」（1994、梅林宏道）より引用

図 8-4 辺野古弾薬庫の施設配置図



### 8.2.2.2 施設等使用履歴

昭和 31 年	「辺野古弾薬庫」、「辺野古海軍弾薬庫」として使用開始。
昭和 47 年 5 月 15 日	2 施設が統合され、「辺野古弾薬庫」として提供開始。
昭和 52 年 6 月 15 日	施設管理権が陸軍から海兵隊へ移管。
平成 2 年 6 月 30 日	国道 329 号改良用地約 5,000 m <sup>2</sup> （辺野古付近）を返還。
平成 3 年 5 月 31 日	国道 329 号改良用地約 140 m <sup>2</sup> （辺野古付近）を返還。
平成 5 年 11 月 4 日	隊舎等として、建物約 7,500 m <sup>2</sup> と工作物（囲障等）を追加提供。
平成 12 年 10 月 31 日	管理棟として、建物約 490 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
平成 22 年 10 月 21 日	仮設倉庫の一部改修に伴い、水道等を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### < 主要建物及び工作物 >

建 物：隊舎、事務所、宿舎、工場、弾薬倉庫、避難所ほか

工作物：保安柵、上下水道、テニスコート、駐車場ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

## 8.3 基地等の環境状況

### 8.3.1 自然環境（植物）

#### 8.3.1.1 現存植生図

辺野古弾薬庫及び周辺の現存植生図を図面集「[現存植生図B](#)」に示す。

#### 8.3.1.2 植生自然度図

辺野古弾薬庫及び周辺の植生自然度図を図面集「[植生自然度図B](#)」に示す。

#### 8.3.1.3 特定植物群落

辺野古弾薬庫及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

#### 8.3.1.4 重要な種、貴重な種等

辺野古弾薬庫及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）は確認できなかった。

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

### 8.3.2 自然環境（動物）

#### 8.3.2.1 重要な種、貴重な種等

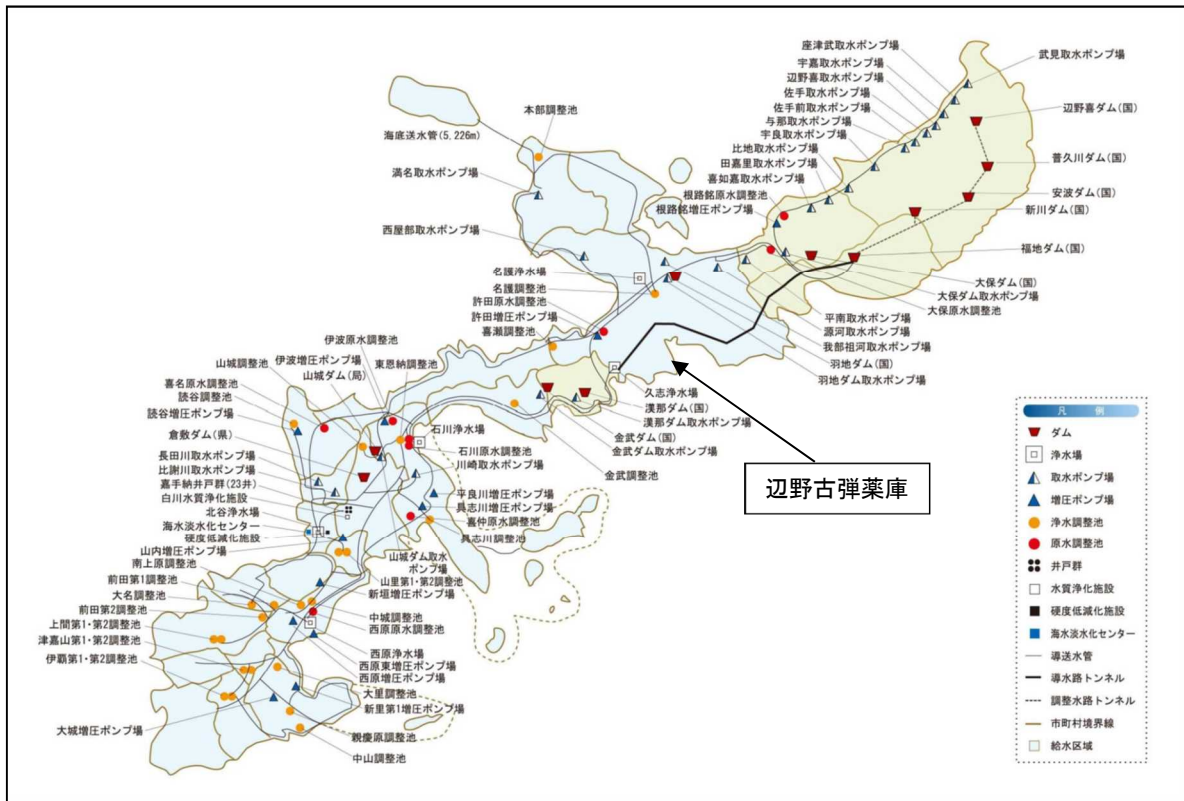
辺野古弾薬庫のある名護市で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は 58 種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針 [沖縄島編]」（平成 10 年 2 月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

### 8.3.3 水利用状況

#### 8.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図 8-5 に示す。

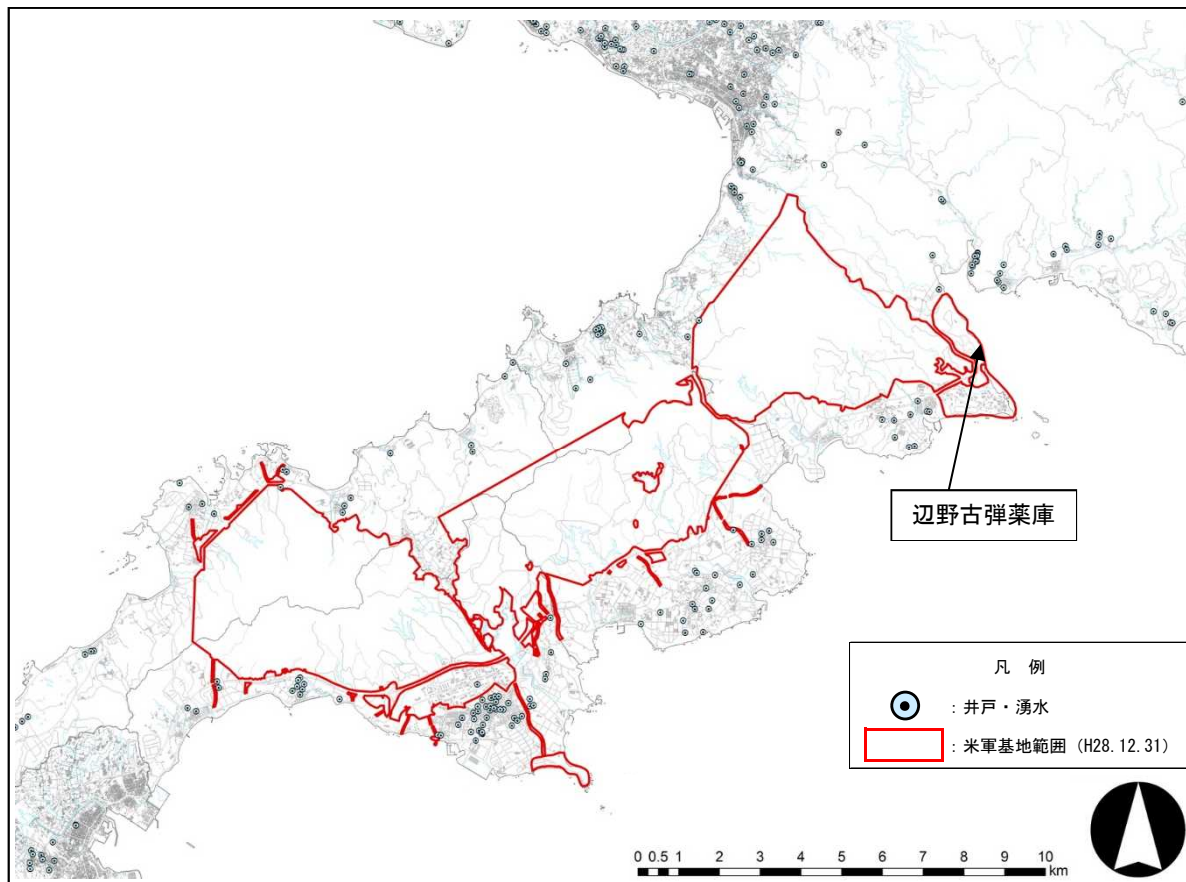


出典：「2015<平成 26 年度決算版> 環境報告書」（平成 28 年 3 月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 8-5 沖縄島及び周辺の水利用状況

### 8.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

辺野古弾薬庫及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 8-6 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平成29情使、第269号)」

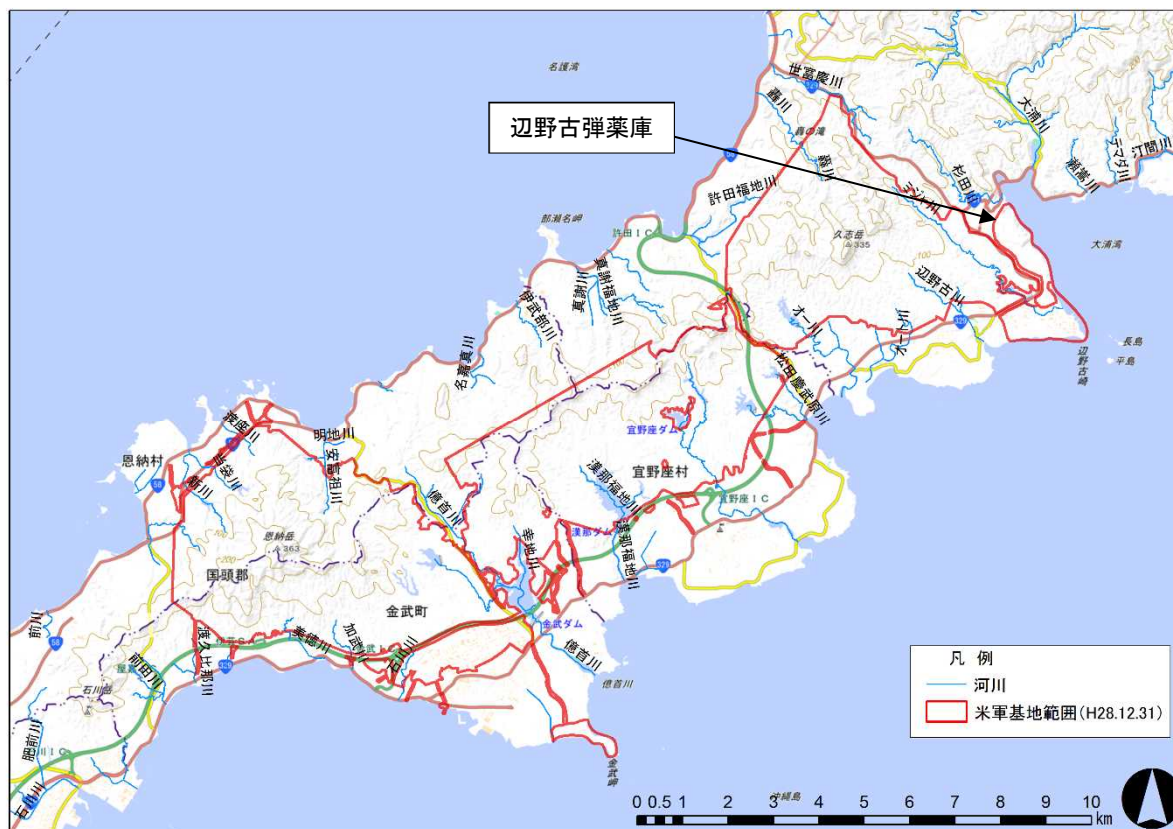
注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 8-6 辺野古弾薬庫及び周辺の井戸・湧水分布状況

### 8.3.3.3 河川及びダムの分布状況

辺野古弾薬庫及び周辺の河川、ダム分布状況を図 8-7 に示す。辺野古弾薬庫及び周辺に、二級河川、準用河川、国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、  
「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照  
図 8-7 辺野古弾薬庫及び周辺の河川、ダム分布状況

### 8.3.4 地下水の状況

#### 8.3.4.1 地下水基盤面等高線図

辺野古弾薬庫及び周辺の地下水基盤面等高線図は作成されていない。

### 8.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

#### 8.4.1 事故等の概要

辺野古弾薬庫及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の情報は、「沖縄の米軍基地」（沖縄県）、「環境白書」（沖縄県）では確認できなかった。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 20 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「環境白書【平成 24 年度報告】」（2014、沖縄県環境部環境政策課）、  
「環境白書【平成 25 年度報告】」（2015、沖縄県環境部環境政策課）、

「環境白書【平成 26 年度報告】」（2016、沖縄県環境部環境政策課）を参照

#### 8.4.2 事故等発生場所

辺野古弾薬庫及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

#### 8.5 環境調査を実施する場合の留意事項

辺野古弾薬庫において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- |  |
|--|
| 1 地区内に遺棄弾の存在が危惧されることから、将来利用及び環境調査を実施する前に安全性を確認する必要がある。 |
| 2 弾薬庫が存在することから、弾薬や化学薬品による土壌汚染等の調査を行う。                  |

#### 8.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下、「NARA」と言う。）で収集した在日米軍関係資料のうち、辺野古弾薬庫及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 8-1 に示す。

辺野古弾薬庫及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 8-1 辺野古弾薬庫及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1975 年 10 月 11 日	辺野古弾薬庫	写真	辺野古弾薬庫の空中写真。
1971 年 10 月 27 日	弾薬庫	文書	日本の米国大使館から国務省へのテレグラムの記録。日本国参議院予算委員会で、沖縄の辺野古にある核兵器（ポセイドン：潜水艦弾道ミサイル）が、辺野古弾薬庫の 1060 ビルに存在するという話が取りざたされたと記されている。
1971 年 12 月 10 日	毒ガス保管庫	文書	毒ガス保管庫や化学部隊に関する記事。沖縄で毒ガス保管庫（Poison Gas Storage Facility）施設の建設を検討している件と、かつて知花に駐屯し、今（1971 年現在）は辺野古に配属中の 267th 化学部隊 185 名について記されている。

#### 8.7 環境等に関する通常監視について

辺野古弾薬庫及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていない。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、  
「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、  
「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照